



医療現場の『縁の下の力もち』、臨床検査技師をめざす

◇ 今回は、水野星香さん（名古屋大医学部保健学科検査技術科学専攻）のレポートです！

はじめまして！名古屋大学医学部保健学科検査技術科学専攻4年の水野星香です(^-^)

医学部といっても、私になるのは医者でも看護師でもなく、臨床検査技師です。最近ではドラマ「フラジャイル」や「アンナチュラル」にも臨床検査技師が登場し、知名度を少しずつ上げていますが、せっかくの機会なので、臨床検査技師とは何か、また大学ではどういったことが学べるのかも紹介していきたいと思います(^-^)

臨床化学の実習にて

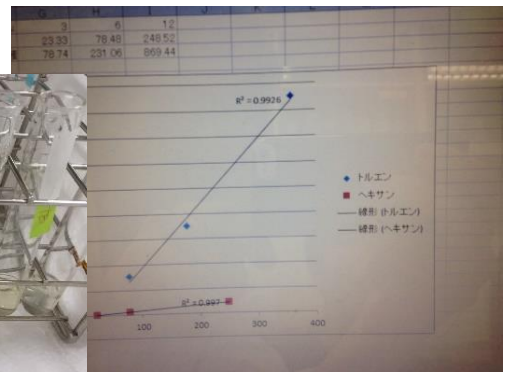
臨床化学検査は、体の健康

状態を知るためにとっても

重要です(^^) /

患者さんの検体(血液や尿)の

成分濃度を調べます。



医療現場における『縁の下の力持ち』

検査技師はよく“縁の下の力持ち”と呼ばれるように、治療や看護を通してではなく、検査を通して患者さんの検体に異常がないかを調べたり、心臓の動きはいいか、脳に異常がないか等を調べることで患者さんの健康に貢献しています(^^) /

ここでは、具体的にいくつかの検査を紹介したいと思います。

① 微生物検査

夏になると、必ず一度はニュースで「食中毒」「腸管出血性大腸菌」「O-157」などの単語を耳にしたことがあるのではないのでしょうか。人間に食中毒を引き起こす悪い菌の中でも、親分的存在なのがE.coli(腸管出血性大腸菌もE.coliの一種です)という菌です。その他にもB.cereusやS.aureusなどたくさんいます。実はS.aureusはヒトの皮膚の常在菌でもあるのですが、一步間違えると食中毒を起こす危険な菌にもなり得るのです…。そして厄介なことに、菌によって効く薬は違ってきます。なので食中毒を起こしている患者さんに薬を処方するには、まず菌の種類をはっきりさせなければいけません。ここで臨床検査技師の登場です。患者さんの血液を寒天培地に塗ってコロニー(菌の集団)をつくり、これを染色して顕微鏡で見たり、別の培地に塗って培地の色の変化などを見たりすることで、原因菌を特定します。

② 病理検査

いまや日本人の2人に1人が「がん」によって亡くなる時代だといわれています。がんには良性と悪

性があり、悪性の中でもステージ1やステージ4などとクラス分けされ、これは余命や治療方針に大きく影響します。では、どのようにしてクラス分けをしているのでしょうか？ 答えは病理診断、つまり組織診と細胞診です。これはもう言葉のまま、組織診は組織を、細胞診は細胞を診ます。患者さんから採取した組織や細胞を染色し、できた標本を顕微鏡で観察します。ここで検査技師が大丈夫な標本を除き、怪しい標本をお医者さんに診てもらって最終診断になります。技師の中には、勉強を重ねて細胞検査のエキスパートである細胞検査士の資格を取得する方もいます。

検査技師の仕事はまだまだあって紹介しきれないですが、どの仕事にも共通して言えるのは「チーム医療」の大切さです。技師だけで検査していても何の意味もありません。その結果を医師に迅速に報告し、薬剤師さんに薬を出してもらい、看護師さんに患者さんに薬を飲むように指導してもらい… など、いろんな職種の仕事が回りまわって一人の患者さんの健康を支えていることを、忘れないようにしたいです。

名大での4年間

名古屋大学では、1年次は専門的な勉強というよりは、文理問わず様々なジャンルの授業がありました。数学、化学、哲学、医療、英語などなど…。また、たくさんある科目の中から、自分が興味のある授業も自由に受けることができます(^)/ 私は関心のあったジェンダー論の授業をとっていました。

2年生になると徐々に専門的な授業が増え、人体の構造や細胞学、免疫学、微生物学、血液学などを講義や実習を通して学んでいきます。3年生になると恐怖の採血実習があり、ひたすらに細胞を見つめ、思わず「うおお…」と感嘆せざるを得ない寄生虫を観察していると、怒涛の勢いで卒業研究がやってきます。

ここで声を大にして言いたいのが、さすが名古屋大学！！ 研究大好きな人にはたまらないと思います。なぜなら、保健学科や医学科のキャンパスにある最新鋭の機器を使用して、自分の興味があるテーマを思う存分研究することができるのです。私は免疫研究室に属して、白血球に属するBリンパ球という細胞の機能を、マウスを使って研究しました。検査専攻なので意外に思われるかもしれませんが、研究は検査に関するだけでなく、血友病という病気の遺伝子解析であったりアレルギー疾患の機序であったり、疾患に関するテーマも数多くあります。大学院のHPに詳しい研究テーマがのっているので、ぜひぜひご覧下さい(^-^)

そんなこんなでいつの間にか4年生となり、卒業研究が終わると名大病院における病院実習、就職活動、4年間の集大成である国家試験を迎えます。

今思うと、高校の3年間より本当に本当にあつという間でした。関高生だった私はきっとこんなこと思いもしなかったでしょうが…。

関高校のみなさんへ

ここまでは大学生活の勉強面を中心に紹介しましたが、最後に私自身の大学生活を振り返って、皆さんにメッセージを送りたいと思います。私は青年海外協力隊への憧れから、海外インターンのサークルに所属したり、名大のプログラムに参加してタイの病院や施設を訪問しました。実はそこで海外への憧れが強まったかというところではなく、広い世界を知るたびに「自分にはもっと身近に助けるべき人が

いるのではないか」という思いが強くなり、日本の病院でボランティア活動をはじめました。

関高生の皆さん、大切なことは案外近くにあるかもしれません。

遊びに行った百貨店で、店員さんの丁寧な接客に感動するかもしれません。何気なく行った美容院で、美容師さんの技術のすばらしさに驚くかもしれません。めんどくさいと思っていた授業で思わぬ面白い話が聞けるかもしれません。そして名大のHPを見てみたら、研究にも興味がわくかもしれません(笑)

夢とかやりたいこととか、簡単には見つけれられないですが、自分が動くことで夢につながるかけらのようなものは見つけることができるかもしれません。大学生は自由であるとは言いますが、高校生の皆さんにも手にしている自由は確実にあるのです。その自由を、ぜひ自分の将来のためにフル活用して下さい。そうして進む道をきめた時、その道が最善の道であるのか、悩むときが来るかもしれません。

でも最善の道なんてそんなものはじめからないです。自分で決めた道を最善にできるように、努力してみてください。私も悩みっぱなしの毎日ですが、高校時代に恩師からいただいたこの言葉を胸に毎日もがいています。

関高生の皆さんのこれからの、たくさん素敵なことが起こりますように(^^) /

応援しています！

卒業研究発表会にてとても緊張しました…！

